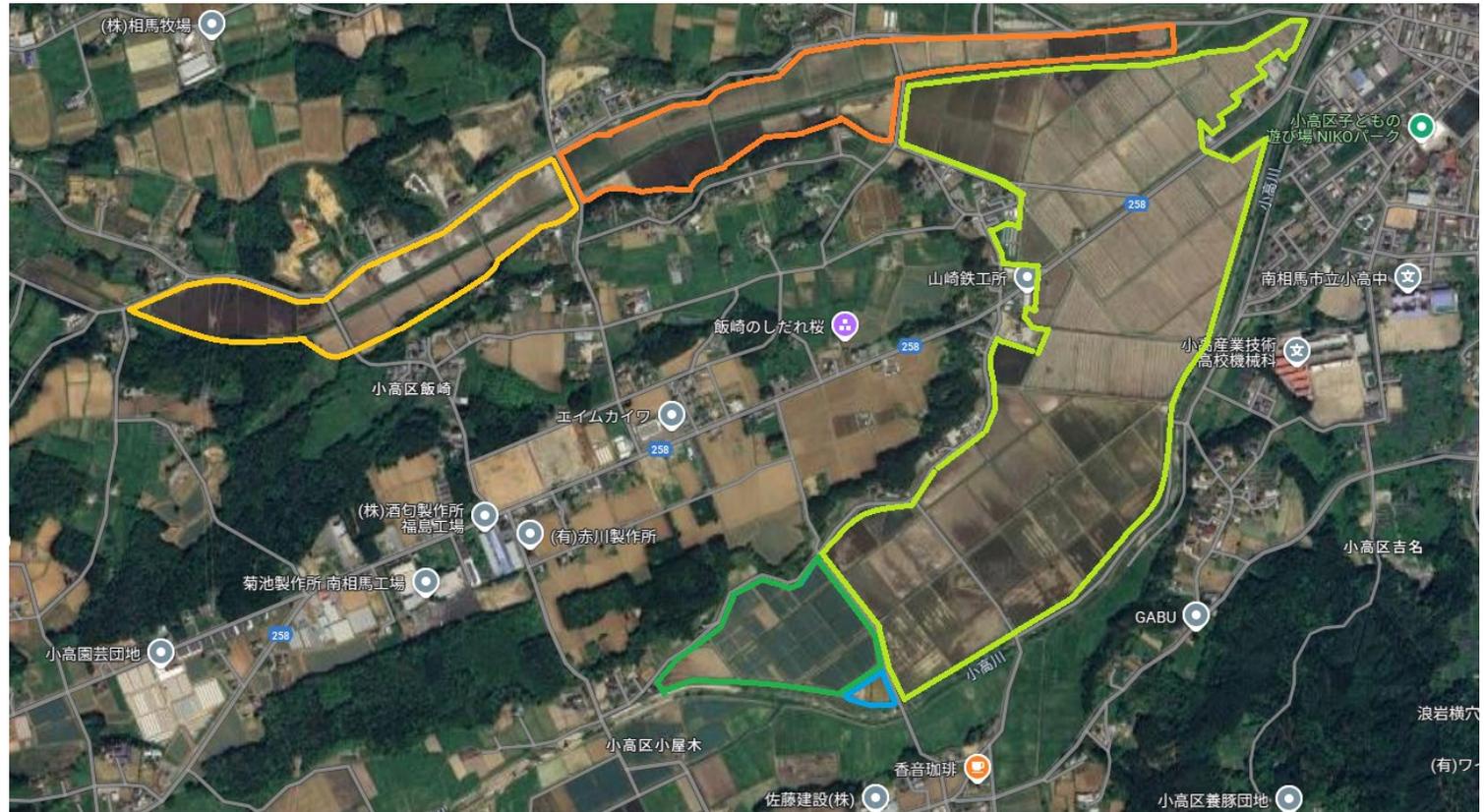


飯崎生産組合の取り組みについて

株式会社飯崎生産組合

圃場整備事業

- 平成22年経営体育成基盤整備事業70haで採択(震災より中断)
- 平成26年農山村地域復興基盤整備事業101haで採択(平成28年着工)
- 令和5年3月に105.2ha面工事終了
- 令和7年2月換地(中間管理機構)
- 促進計画及び人農地プランの担い手4経営に99%を集積



担い手4経営体への集積の状況(担い手間のローテーションは行わない)

会社概要

- 平成22年近隣農家で任意組織飯崎生産組合設立。
- 平成26年より営農再開。大豆50a作付け。
- 平成30年より一次利用指定地で作付け開始。
- 平成31年2月法人化。株式会社飯崎生産組合設立。
- 令和2年から2年間営農再開支援事業の採択(先端技術等を活用した大規模な営農再開拠点に向けた支援)スマート農業等様々な実証を行う

2024年度作付状況

水稻	36.1ha
大豆	31.3ha
タマネギ(秋植え)	2.1ha
子実トウモロコシ	1.1ha
計	70.8ha

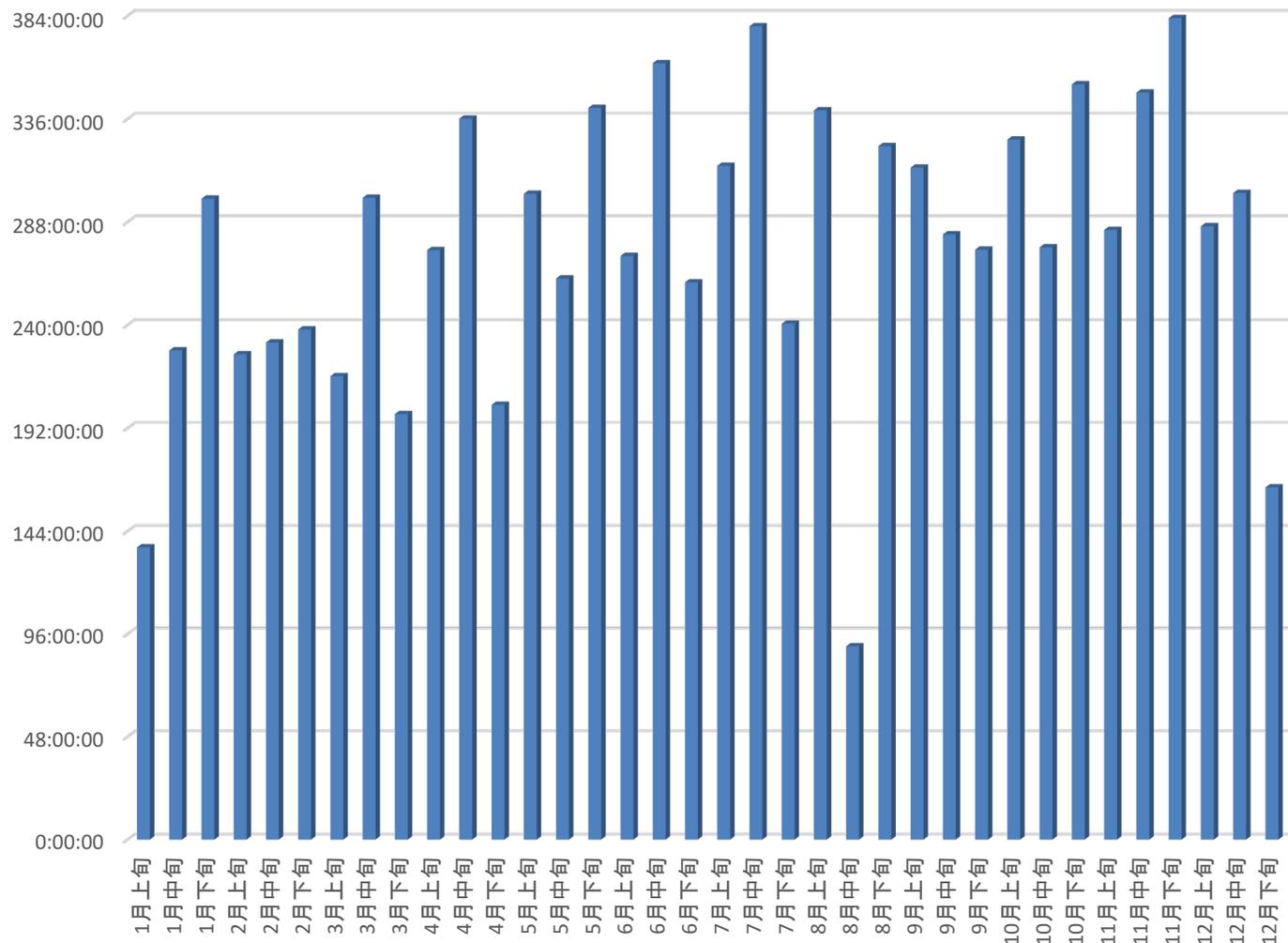
2024年度労働実績

作業従事者	5名
年間作業時間	延べ9580時間
年間労働時間	1880時間/人
臨時労働者	延べ25人

実証事業の目的と解決すべき課題及び手法

目的	経営規模の拡大(経営の発展)		
課題	(作業の)省力化	(労力の)分散化	(生産の)安定化
手法	密苗		リモートセンシング
	GNSSガイダンス・自動操舵システム		可変追肥
	直進アシスト田植機		ドローン防除
	水管理システム(Farmo)		土壌分析
	ロボットトラクター		食味分析
	リバーシブルプラウ		可変基肥
	GPSレベラー・ガイダンス		
	情報処理:経営管理システム(ヤンマースマートアシスト)		

2024年旬別労働時間



栽培面積と労働時間の推移

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
水稲移植	21.6	20.8	23.4	26.1	22
水稲湛直	3.9	6.2	0	0	0
水稲乾直	0	4.2	10	11.5	14.9
大豆	12.6	27.7	24.4	30.5	31.2
タマネギ	3.1	2.4	2.6	3.2	3.1
合計(ha)	41.2	61.3	60.4	71.3	71.2
総労働時間	9528	10662	10124	10409	9580

稲作について

乾田直播



密苗による田植



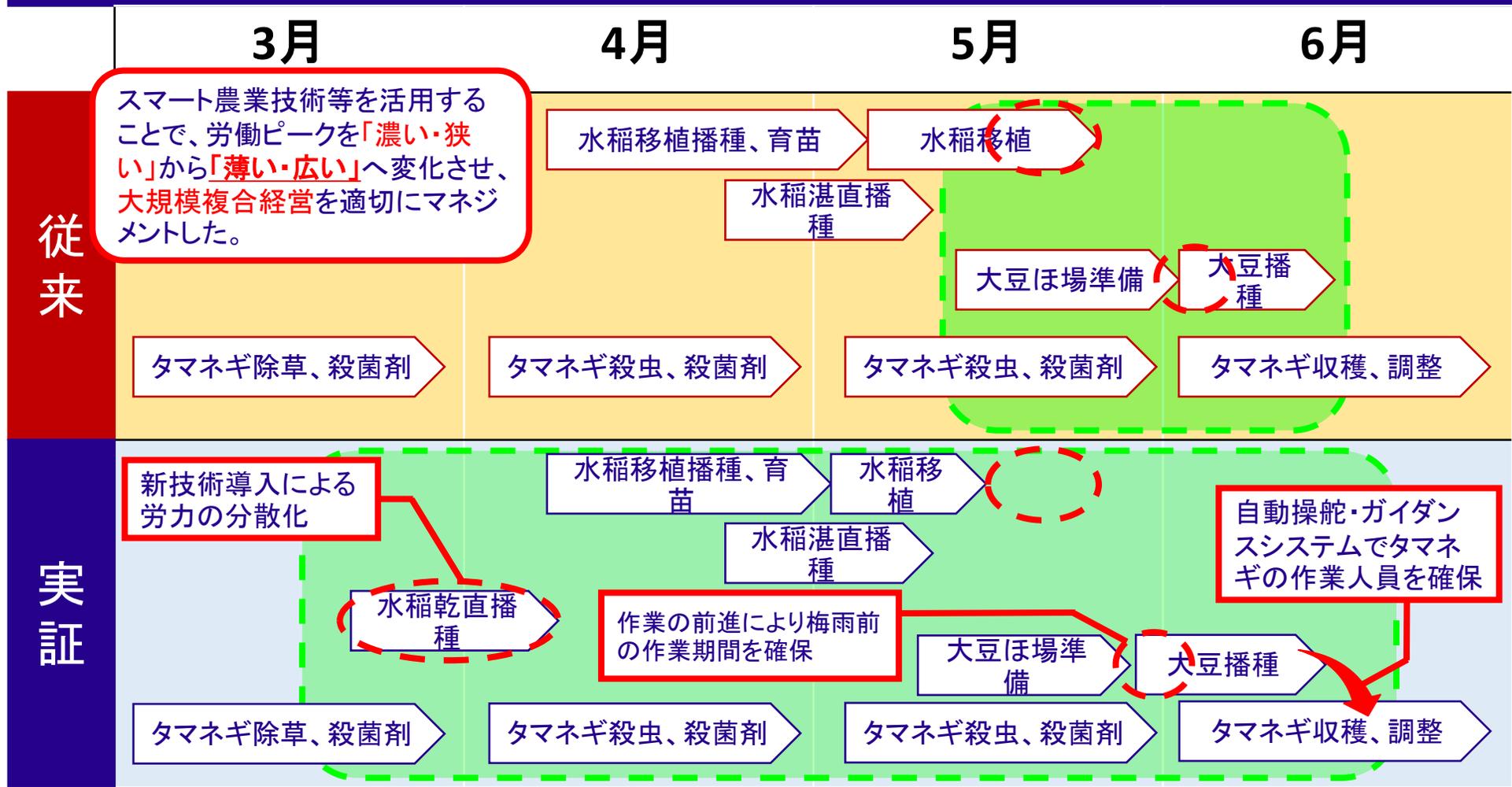
基本的に移植は作業日数が7日間で終了できる面積(20haから24ha)それ以上は乾田直播栽培を行う





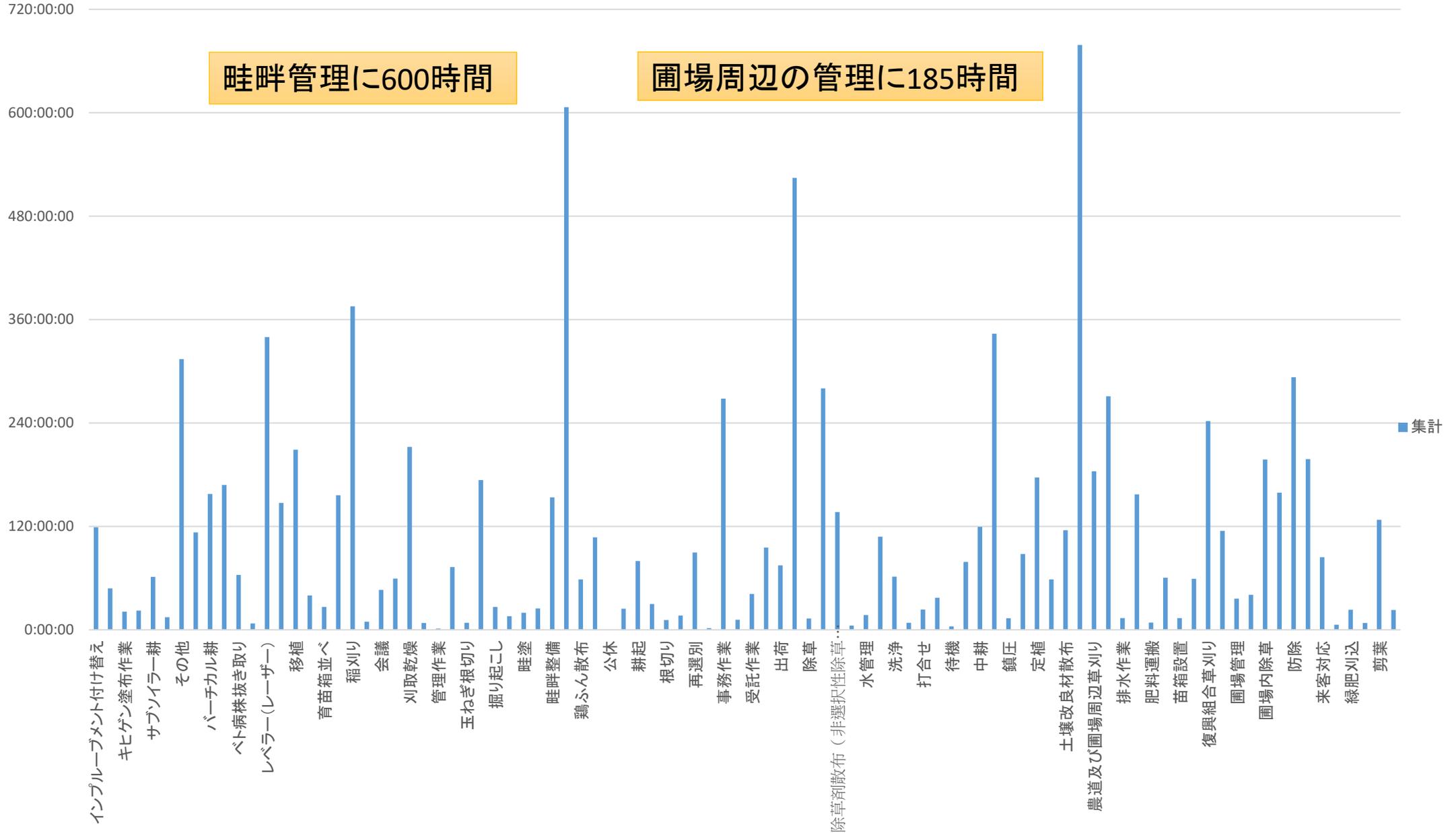


(労力の)分散化(乾田直播)



作業別労働時間

集計



課題

1 圃場整備の考察

- ・ 畦畔の形状問題(農作業事故に遭わない為にも)
- ・ 畑作物を作付けするときには畦畔を撤去する考えも必要か
- ・ 農業用施設及び周辺の維持管理
担い手だけでは限界がある

2 担い手不足

- ・ 従業員の高齢化と猛暑への対応
- ・ 機械力だけでは限界がある(想定外への対応)
- ・ 事業継承をどのようにするか

3 輪作体系の構築

- ・ 乾田直播と大豆のローテーションでは地力の低下を招く
- ・ 地力を回復させる手法。堆肥? 緑肥?

4 生産コストが高止まりの中作業体系や肥培管理の見直しも必要

